

「津波」についてメカニズムを分析し、発生の予測が可能かどうかの議論を始めると発表しました。

トンガ諸島の海底火山で発生した大規模な噴火に伴う衝撃波「空振」の影響で、海面が上下するなどして波が増幅され、潮位が変化した可能性があると考えられています。

そして、想定よりも大きな津波が予測より早く到達し、鹿児島県の奄美大島や岩手県の久慈港では1m以上の潮位変化が観測されました。

有識者らを交えて、大規模火山噴火で発生した潮位変化のメカニズム等を分析するため、「津波予測技術に関する勉強会」を開催することになりました。

3月末までに2回程度開催し、分析結果を取りまとめる予定です。

第1回は、令和4年2月14日に開催する予定となっています。

さらに、火山噴火等に伴う潮位変化に対する情報発信のあり方を議論するための検討会も開催します。

トンガ沖での噴火では「津波警報・注意報」が出たものの、自治体の避難情報の発令にばらつきが出るなど一部で混乱も招きました。

気象庁は「情報発信として不十分だった」とし、令和4年度前半に3回程度検討会を開催し、改善策を取りまとめる予定です。

これらの会議においては、調査・研究や監視・評価に資する技術開発等、中長期的に取り組むべき課題への対応方針も議論するとしています。

3. 「遠地地震に関する情報」を活用した情報発信について

新たな方針が決定するまでの当面の間は、海外で大規模噴火が発生した場合や、大規模噴火後に日本へ津波の伝わる経路上にある海外の津波観測点で潮位変化が観測された場合に、「遠地地震に関する情報」により、日本にも潮位変化の影響がある旨を情報発信するとしています。

また、その後の国内外の潮位変化に応じて、津波警報等の仕組みを活用した津波警報や津波注意報が発表されます。

この「遠地地震に関する情報」は速報性を重視するため、コンピュータで自動伝達するため、大地震を伴わなくても冒頭に「海外で規模の大きな地震がありました」といった定型文や「震源地」が自動的に記されるものとなります。

よってその後、訂正や更新が行われる可能性があります。

なお、日本に近い火山の場合には、「遠地地震情報」を出さずに「津波注意報・警報」を発表することもあります。

第1位 1月22日 日向灘で最大震度5強の地震

<https://www.facebook.com/SignalNow/posts/5075178712514771/>

第2位 トンガ諸島で大規模火山噴火 太平洋広域に津波に発生の可能性

<https://www.facebook.com/SignalNow/posts/5046536348712341/>

第3位 2月1日 神奈川県東部で最大震度3の地震

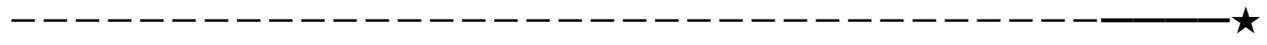
<https://www.facebook.com/SignalNow/posts/5117514064947902/>

♪見守りケロタンからのお知らせ♪

◆SignalNow X (無償版) ダウンロードサービス実施中!!

<http://www.estrat.co.jp/signalnowx.html>

<https://forest.watch.impress.co.jp/library/software/signalnowx/>



◆新津波電文対応 SignalNow Lite、販売中!!

気象庁の新津波電文に対応し、津波警報・注意報も通報することができます。

「高度利用者向け緊急地震速報(予報)」を利用した通報システムです。

<http://www.estrat.co.jp/sn-lite.html>

発行元

ストラテジー株式会社

〒182-0023 東京都調布市染地 2-14-50

SignalNow シリーズの開発・配信事業を行っています。

緊急地震速報 地震動の予報業務の許可事業者 許可第198号

<http://www.estrat.co.jp/>

編集

株式会社小林洋行コミュニケーションズ SignalNow デスク

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町 1-15-7

<https://kobayashiyoko-com.jp/sn/>